

アフリカへ望遠鏡を

長島美紀(一般財団法人 mundef)

mundef ではこれまでマリ、マラウイに「君もガリレオ！」プロジェクトに賛同して、簡易望遠鏡を運び、子どもたちに届けてきました。その概要と課題、展望を紹介します。

1. Child Africa とは

一般財団法人 mundef がアフリカへ望遠鏡を届けるきっかけは、2009 年にさかのぼる。アフリカの子どもの教育支援を行うプロジェクトとして 2008 年にスタートした Child Africa (チャイルド・アフリカ) は、2009 年以降、「君もガリレオ！」プロジェクトに賛同し、海外視察、出張業務に合わせて、これまで東南部アフリカのマラウイ、西アフリカのマリでの配布に協力してきた。

1.1. 現地での贈呈状況

現地では、星の手帖社の「君もガリレオ」望遠鏡を贈呈。マラウイではこれまで合計 15 本(合計 2 回)、マリでは合計 10 本を贈呈してきた。マラウイは 1 回目の贈呈で現地 NGO へ、2 回目を JICA マラウイ事務所へ持参。マリでは視察に合わせて訪問した各地の小学校で現地教職員へ贈呈を行った。

1.2. 贈呈にあたっての課題

マラウイ、マリではそれぞれ英語のマニュアルを持参、特に太陽に望遠鏡のレンズを向けて覗かないようお願いをしながら、贈呈した。特にマリは公用語がフランス語であり、現地職員の大半が英語が読めないことを考え、望遠鏡の入った箱にフランス語で「太陽に向けないこと」と記載をして贈呈している。

ただし、後述の通りマラウイおよびマリ共に初等教育機関や教育設備がない場所での配布となったこと、理科教育に通じている教員が不在であるためにそもそも望遠鏡とは何かの理解が欠如していることが課題として考えられる。

2. 課題

2.1. 受け手側の課題

受け手側が今後考えるべき課題としては以下の点が考えられる。

- (1) 言語の問題(マリ・フランス語): 特にフランス語のマニュアルが不在であるため、西アフリカに持参する場合、その後のフォローアップが難しい。
- (2) 使用方法の問題(理科教員の不在): 初等教育における教員の質の問題として、理科教員の不在がある。これにより、適切に道具を使用できないという課題が残される。
- (3) 望遠鏡そのものを贈呈するにせよ、フォローアップの問題が大きい。マラウイでは、JICA 事務所にも渡し、望遠鏡とは何かを理解している JICA 青年海外協力隊に使用の可否を検討いただけるようお願いはしたが、現地のニーズを十分に考え、贈呈をする必要がある。

2.2. 送り手側の課題

送り手の課題として以下の点が考えられる。ただし、この点は mundef の課題であり、この種の課題は事前

の念入りな準備により調整できることは申し添えたい。

(1)寄贈時に十分な説明ができない:言語の問題と重なるが、mundef スタッフが十分な知識がないままに望遠鏡を持参しているために、説明が十分ではなく、結果として望遠鏡の使用方法に関して、またその意義について現地に理解してもらうまでに行かなかった。この点は、コミュニケーションを考えるうえで、課題と言える。

(2)事前の準備不足や受け手への情報提供もなかったために、配布計画が不在であった。贈呈先の地域や国、政府や関連する援助機関などとの教育に関する計画や、理科教員との密接な連携など想定しながら、必要とされる箇所へ必要な数を届ける必要がある。

参考文献

[1] 一般財団法人 mundef <http://www.mundef.net>